

平成18年6月12日招集

伊万里市議会第2回定例会

市長提案理由説明

(はじめに)

平成18年第2回定例会の開会にあたり、市政運営について所信の一端を申し述べますとともに、今議会に提案いたしました平成18年度補正予算、並びにその他の議案について概要をご説明申し上げます。

私は先の市長選挙におきまして、無投票当選という形で、引き続き2期目の市政運営の舵取りを任せていただきました。これは、市民本位を基調とした「さわやか市政」の流れをこのまま続けて欲しいという市民の皆さまの熱い期待のあらわれと受け止めており、それ故に責任の重大さを痛感し、身が引き締まる思いがいたしております。いま一度初心に立ち返り、さらなる伊万里市の発展のために全身全霊で取り組もうと決意を新たにいたしております。

(市政運営の考え方)

さて、日本社会は、人口減少時代へと転じ、一層の少子高齢化の進展が予測される中、2007年問題と言われる団塊の世代対策や、高齢者・女性の労働市場での受入れなど総合的な社会経済制度の変革と出生減への対応など、国と地方、それぞれで実効性のある対策が求められております。

殊に、国が進める三位一体の改革では、5カ年で5.1兆円の削減が進められた交付税について、さらなる削減が論議されており、今後の地方自治体の財政基盤はますます不安定になることが予測されるところです。

このため、多くの自治体がそうでありますように、本市でも財政の健全化を最重要課題としてとらえ、一昨年に財政健全化計画を策定して効率的な財政運営に努めてきたところですが、現状は予想以上に深刻な状況にあり、徹底した事務事業の見直しをはじめ、市民との協働による新たな公共サービスの仕組みの構築など、市民の目線に立ったさらなる改革を推進していく必要があります。

一方、社会資本の整備では、この4年間、厳しい財政状況にはありましたが、長年の懸案であった駅周辺やファミリーパーク整備などの大型プロジェクトをはじめ、各町での地域に根ざした事業などについても、一定の進捗をみることができました。

また、様々な分野での多種多様なまちづくり活動に市民との協働あるいは市民主体の取り組みが浸透し、定着を見せていることは大変心強いものがありますし、全国レベルでの情報発信となる明るい話題も多く、伊万里市の活力を内外に広めることができたところです。

最近では、これまでのインフラ整備や企業誘致活動などの努力が実を結び、新たな企業の進出や IC 関連企業の大規模な事業拡張が決定したほか、美術館の誘致も実現の運びとなるなど、市民の積極的なまちづくり活動に加えて、市勢発展の大きな原動力となる民間による経済活動を活用する取り組みも成果を得ようとしているところであります。

私は、このような伊万里市の元気をさらに大きくしていくため、引き続き市民本位、市民との協働を基調にした「さわやか市政」を貫く考えであります。今回市政を担わせていただくにあたり、2つの軸を市政の舵取りの指針にしたいと考えております。

一つは、将来の伊万里市全体をどう発展させていくか、いわば未来志向型の伊万里市づくりとも言うべき大きな視点であり、もう一つは市内の各町、地域において、子どもからお年よりまで市民のだれもが暮らしやすさを実感できるような、それぞれの地域でのキメ細かな配慮のある伊万里市づくりです。

また、今回の市長選挙でお示ししました政策実行計画（マニフェスト）では、「伊万里市の元気をつくる5つのエネルギー政策」として、具体的な80の元気施策を掲げているところであり、市民の皆さんが愛着と誇りを持つことのできる「住みたいまち」、さらには訪れる人が魅力を感じる「行きたいまち」をめざ

して、職員一丸となって取り組んでまいりますので、議員各位のご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

(主要な施策)

以上、2期目の市政を担うにあたって基本的な考え方を申し述べましたが、次に主要な施策を政策実行計画(マニフェスト)に掲げた5つのエネルギー政策に沿ってご説明申し上げます。

まず、一つめは「歴史や伝統文化、特産品など地域の宝を生かした元気なまち」です。

世界に誇る焼物「鍋島」や古伊万里由来の歴史、文化など地域固有の資源を活用して、観光客の誘致等による交流人口の拡大をめざします。

そのため、秘窯の里大川内山の窯元群や国指定の史跡、建設に向け動き出している戸栗美術館(仮称)などの一体的な活用方策の検討を行うとともに、古伊万里文化の漂うまちづくりとあわせて江戸時代の^{おおじょうや}大庄屋前田家など歴史的な遺産の保存活用に努めながら、市街地への観光客の誘致を図ります。

また、希少なカブトガニの繁殖地であることや新たなツル越冬地をめざしていることで全国の注目を集めており、環境教育や観

光資源としての活用についてさらに取り組みを進めてまいります。

生産活動の面で伊万里の元気を支えている市内の企業活動に対する理解、関心を促すとともに、新たな観光資源としての可能性をさぐるために造船所等市内企業の見学会を実施するなど、既存の観光資源と組み合わせた産業観光の開発にも取り組んでまいります。

二つめは「地域医療の充実と食のまちづくりによる日本一の健康長寿の元気なまち」です。

医療ニーズが多様化、高度化するなか、健康を願う市民の公的医療機関への期待は大きいものがあり、これに応えていかなければなりません。

そこで、高度救急医療をはじめとする地域医療の充実を図る中核的病院の整備については、社会保険庁等国の動きを見きわめながら、その実現に向けた基本計画策定に取り組んでまいります。

また、高齢者のみなさんが健康で安心して生活できるよう、一人暮らしや要介護の高齢者などに対する各種の事業を実施するほか、たっしゅか体操の普及などを通じて高齢者が地域のなかで元気で生き生きと暮らしていくための健康づくりや生きがい対

策も講じてまいります。

一方、安全で安心な食生活につながる地産地消の取り組みや「ふるさと薬膳」メニューの普及など「食のまちづくり」を通じて市民の健康維持増進を図り、健康で長生きすることが喜ばれる地域社会をめざします。

三つめは「企業誘致と地場産業の育成による雇用の拡大と生き生きと働ける元気なまち」です。

伊万里に働く場を求める新規学卒者やUターン、Iターン希望者にとって魅力のある雇用の場と環境づくりに努め、定住人口の拡大を図ってまいります。

まず、IC 関連企業の雇用を含めた空前の規模での事業拡張を受け、工業用水の確保が最優先すべき課題であることから、県との協調、連携により、鋭意取り組んでまいります。

また、企業の動きが活発な今の時機を逃すことなく、今後も積極的な誘致活動に取り組むとともに、地場の中小企業等に対しては、誘致企業との連携による新分野への取り組みや新商品開発の支援などを通じてその育成を図ります。

四つめは「教育・福祉の充実と子育て支援による安心して子ども

もを産み育てる元気なまち」です。

将来を担っていく子どもたちを心身ともに健やかに育てあげ
ることは地域全体の努めであり、そのための環境づくりは緊急な
行政課題のひとつです。

人口減少の大きな理由のひとつとされる少子化に対応して、不
妊治療に対する助成やこども医療費助成制度を新たに設け、経済
的な負担の軽減を図るとともに、留守家庭児童クラブの拡充など
により、安心と喜びを感じながら子育てができる環境づくりに努
めます。

また、子育て支援について、市民や事業所など地域をあげた取
り組みとして充実させるため、新たに基金制度を設け、今後幅広
い活用を図ってまいります。

五つ目は「活力ある農林水産業の育成と商業を中心とする中心
市街地が輝く元気なまち」です。

国の農業政策が規模の大きい経営体などの担い手農家への支
援に移行する動きのなか、牛肉や梨、きゅうりなどの全国的な銘
柄産地としての地位をさらに高め、地域農業の自立に努めていく
必要があります。

そのため、伊万里牛を中心に、一層のブランド力向上と販路拡

大を図るとともに、優れた技術や経営能力を備えた若い農業者の就農を促進するなど、地域農業の担い手確保に努めます。

また、伊万里市独自の都市農村交流イベントとして話題を集め、好評を博している「畑の中のレストラン」の第2弾として、「畑の中のホテル」とも呼ぶべき農家民泊の取り組みなども視野に入れたグリーンツーリズム事業を推進し、農業農村の活性化に力を入れてまいります。

中心市街地については、観光ボランティアガイドの皆さまの精力的な活動で注目されている古伊万里文化をテーマにした街なか散策を中心に観光客の誘致を図るとともに、商店街活性化に向けた各種の取り組みを支援することにより、賑わいのある商店街の形成に努めます。

以上、5つの元気なまちづくりについて申し上げましたが、複雑で多様化する市民ニーズへの対応には財政的にも人的にも制約がありますので、行政と市民の役割を見直しながら、これからの新たな行政サービスについて、そのあり方をさぐり、築いていかなければなりません。

そうした考えに立ち、各町単位でのタウンミーティングに加えて、地域づくり団体の関係者をはじめ各界各層の幅広い市民の皆

さまとの対話交流集会により、まちづくりに関する意見交換や情報提供を行うとともに、今回提案しております「市民が主役のまちづくり条例」などを通じて、市民の皆さまのまちづくりへの積極的な参画をうながし、協働のまちづくりを推進してまいります。

また、従来は県の事務であったパスポートの発給事務やNPO法人の認証事務等を市で行うなど、市民サービス充実に向けた様々な改革、改善にも積極的に取り組んでいく所存であります。

(補正予算の主な内容)

今回の補正予算では、交付税の減額など歳入の見通しが厳しいなか、当初予算では最小限にとどめていた政策的な経費を中心に計上するにあたり、緊急度や重要度を考慮して事業を厳選するとともに、交付金等新しい国の制度事業の活用などにより財源の効率的な活用に努めました。

その結果、一般会計におきましては歳入歳出それぞれ19億1,356万円を追加し、予算の総額を195億326万円とするものであります。

特別会計につきましては、歳入歳出それぞれ3億4,502万円を追加し、予算の総額を198億6,926万円とするものであります。

企業会計につきましては、歳入において3億2,044万円を、歳出において3億6,506万円を追加し、予算の総額を49億635万円とするものであり、不足する額については過年度分損益勘定留保資金等で補てんすることにいたしております。

以下、今回提案いたしました補正予算の主な内容について、一般会計の歳出から各款ごとに、できるだけ重複を避けながらご説明申し上げます。

まず、総務費につきましては、戸栗美術館（仮称）の建設予定地から大川内山の窯元へつなぐ歩行橋の建設にかかる調査、設計費をはじめ、伊万里・アジアネットワーク事業による中国での伊万里の特産品の本格的な販売に向けた市場調査等に要する経費、広域圏組合による電算業務の共同処理の廃止に伴う市単独の新システムへの移行に必要な経費、犯罪防止を図るために各行政区が行う防犯灯設置への支援に要する経費等を計上いたしております。

民生費につきましては、街なかなどの公共施設にある障害者用トイレの案内看板設置に要する経費をはじめ、心身に障害を持つ方々の生活支援や社会参加を促進するために要する経費、老人福祉センターの改修に向けた設計費や老人クラブの活動を支援するための経費、さらには母子家庭の自立支援に要する経費等を計

上いたしております。

また、大坪町 山口良子様より寄附をいただきましたので子育て応援基金に、伊万里市老人クラブ連合会様、佐賀県遺族会様、伊万里市農業協同組合様、新天町 山口トシエ様、松浦町 永峰保馬様、山代町 井田榮子様より寄附をいただきましたので福祉基金にそれぞれ積み立てるとともに、厚くお礼を申し上げます。

衛生費につきましては、西部保健医療圏における小児医療体制の充実のための経費をはじめ、心疾患による突然死を防ぐため、一般の人でも講習を受ければ取り扱える自動体外式除細動器(AED)を公共施設に配置するための経費のほか、稼動以来25年目を迎えている環境センター施設の老朽化による機能低下防止と延命化を図るため、施設の改修に要する経費等を計上いたしております。

農林水産業費につきましては、米や園芸作物の生産振興に必要な機械、施設導入への支援に要する経費をはじめ、中山間地域等直接支払制度や小規模土地改良事業に要する経費、森林資源の健全な育成と適正な維持管理を図るための林道整備や地域での森林施業を促進する森林^{もり}を守る交付金事業に要する経費などのほか、漁業経営の安定化を図るための養殖施設の改修やみなと祭り開催の支援に要する経費等を計上いたしております。

商工費につきましては、集客増加による商店街の賑わいづくりのためのイベント開催や商店街の活動支援に要する経費をはじめ、企業が行う設備投資への支援に要する経費や企業立地勸奨に必要な経費、ふるさと企業ガイドブック作成への支援に要する経費などのほか、松浦鉄道が行う老朽化した車両の更新や施設整備への支援に要する経費等を計上いたしております。

土木費につきましては、市街地の環状線となる大坪木須線や市街地北部の幹線道路である陣内白野線などの都市計画道路の整備に要する経費をはじめ、市道の改良や舗装などに要する経費、煤屋川などの河川改修に要する経費などのほか、ファミリーパークの整備に要する経費、老朽化した市営住宅5団地の改修工事や伊万里を感じる街なみの修景整備に向けた計画策定に要する経費等を計上いたしております。

消防費につきましては、消防体制の整備を充実するため大川町立川地区の防火水槽新設への支援に要する経費とともに、小型動力ポンプ付積載車を更新するための経費等を計上いたしております。

教育費につきましては、国見中学校の校舎改築に伴う基本設計等に要する経費をはじめ、学校や公民館がそれぞれの地域の特性を活かした教育活動、地域づくりを推進するための経費、図書館

利用者の利便性の向上を図るコンピュータシステムの更新に要する経費などのほか、市民の健康づくりと広く伊万里をPRする健康ウォークを開催するための経費、自治公民館新築を支援するための経費等を計上いたしております。

また、図書館フレンズいまり様、脇田町 田内法子様、脇田町 円田滋様、大坪町 西原希美様、大坪町 川原裕之様、立花町 井手シゲ子様、大川町 古藤貞様、山代町 川本明様より寄附をいただきましたので教育振興奨励基金に、伊万里美術協会様より寄附をいただきましたので文化振興基金にそれぞれ積み立てるとともに、厚くお礼を申し上げます。

災害復旧事業につきましては、4月初旬の大雨で被災した土木施設や農地、農業用施設など19箇所の復旧に要する経費を計上いたしております。

次に、特別会計についてご説明申し上げます。

公共下水道事業特別会計につきましては、浄化センター中央監視制御設備の更新や汚水管理設に要する経費等を計上いたしております。

農業集落排水事業特別会計につきましては、宿地区での水洗化の普及促進を図るため、排水設備工事への支援に要する経費を計上いたしております。

企業会計についてご説明申し上げます。

工業用水道事業特別会計につきましては、伊万里団地等への給水を目的とした第4工業用水道（仮称）建設に伴う調査、設計に要する経費等を計上いたしております。

国民健康保険病院事業特別会計につきましては、県事業活用による小児医療体制整備に要する経費のほか、医療器械備品の購入に要する経費等を計上いたしております。